

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	カスガダイ凸凹文化教室		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年3月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年3月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	施設内にグループホーム、小規模多機能型事業所、就労A型、就労B型、放課後等デイサービスがある。そのため、幅広い年齢層との関りを通して、社会性や思いやり等を育むことができ、一人ひとりの成長につながる環境である。	放課後等デイサービスの利用者とグループホームの利用者合同で、夏祭りを行った。グループホームの方々にお店屋さんとして活躍してもらい、子どもたちはお客さんとして楽しむことができた。日頃の「ただいま」「さようなら」の挨拶を自然に行える場であるよう心がけている。	他部署との関りを更に深めることができるよう、積極的に他部署との交流をもつよう意識していきたい。放デイとしての意図や目的を他部署へ共有し、相談しながら進めていけるようにする。
2	就労A型、就労B型事業所が同敷地内にある。それに伴い、高校2・3年生の放デイ利用者は、就労体験を行う事が可能である。就労体験を通して、たくさんの経験や他者とのかわりを持つことができ、本人の意欲に繋げることができている。また、卒業後の進路選択のひとつとして保護者の方とも情報共有を行っている。	高校卒業後に向けて、就労A型、B型の体験を定期的に設定し、就労支援に向けての練習を行っている。	就労A型、B型の職員との情報交換や情報共有を密にとり、本人にとっての居場所としてより良いものになるよう心がけていきたい。
3	利用者のおやつに関しては、同施設にコロッケスタンドや駄菓子屋があるため、自分で選び購入するという自己選択の場を設けている。	自分が食べたいおやつを選ぶ嬉しさ、自分でお金を払えた達成感を味わえるよう意識している。お友達と一緒に買い物が出たり、自分で買ったりという体験を通して、経験値アップの場として取り組んでいる。	他部署職員と連携し、放デイ職員以外の方からの声掛けや見守りをしてもらい、一人で買い物ができるようにしていきたい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の人数が増えた事に伴い、活動の場が狭く感じるとのご意見があった。		活動内容によって、利用者を分散して過ごすように心がけている。室内活動で窮屈に感じる場合などは、屋外活動を取り入れ、子どもたちがストレスフリーな環境を提供できるようにしている。
2	複合施設ならではの感染症対策	子どもから高齢者までが過ごす複合施設ということもあり、各部署で感染症対策を行っている。しかし、感染症時期においては、感染が拡がってしまう心配もある。	感染症が疑われる、感染症で利用停止の利用者が多い場合は、グループホームとの間の扉を閉めている。また、しっかりと換気をし、感染症を他部署に持ち込まないよう徹底する。施設内での情報共有も行き、感染拡大防止に努める。
3			